

## 高齢者・障害者と交通システム：海外の動向

東京都福祉機器  
総合センター 橋詰 努

## 1. はじめに

高齢者・障害者に限らず、交通システムを利用する際になんらかのハンディキャップを持つ人の移動の自由を確保することは、活力ある社会の前提である。

移動にともなうハンディキャップを解消、もしくは軽減するためには、車両、交通システム、交通インフラの全てを視野に入れて取り組む必要がある。

ここでは海外の高齢者・障害者の利便性に配慮した交通システムや、車両について紹介する。

## 2. イギリスの交通システム

● Dial-a-Ride は、なんらかの障害により一般の交通手段を利用できなかったり、利用困難な人達を対象とした、リフトを装備したミニバスによる予約制のドア・ツー・ドアサービスである。

● ロンドンタクシーは、車いすのまま乗降を可能とするスロープや車いす固定装置、高齢者の乗り込みを容易にする補助ステップや回転シート、車内のですりを数多く備えた新型車両が登場し、2012年までに100%アクセシブルな車両の配備を目指している。障害者にはタクシーカードと呼ばれる補助制度がある。

## 3. スウェーデンの交通システム

● サービスルートは、高齢者・障害者の個別送迎サービス (Special Transport Service) のコスト削減と社会への統合と適合を図るため導入されたバスサービスである。誰もが乗り降りしやすいノンステップのミニバス車両、従来の路線バスにはない細かなルート設定や運行システムなど特別の配慮がなされている。

## 4. アメリカの交通システム

● 障害を持つアメリカ人法 (ADA : Americans with Disabilities Act of 1990) によって、リフトバス、ノンステップバスによる公共交通アクセスを保証し、障害者を対象としたパラトランジット (L-VAN) サービスによる交通サービスの補完をおこなっている。

## 福祉車両の開発の現状

トヨタ自動車(株)  
第3開発センター 斎藤 隆

超高齢時代・高度福祉社会を迎え、移動制約者ともいえる高齢者や障害者の「移動の確保」が社会的な要請である。「人に優しい」「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」というコンセプトが自動車にも求められるようになってきた。高齢者や障害者にとって、車椅子と自動車はまさに足代わりとして欠くことのできないものであるし、高齢者の在宅介護においても移動をいかにサポートするかが重要なカギを握っている。これらのニーズをうけて、高齢者や障害者の移動あるいは自らの運転するための種々の支援装置が開発され、福祉車両の市場は大きく拡大している。車椅子に乗ったまま移動を可能とする送迎車やシートが回転したり車外に乗降する介護車、障害者用運転補助装置 (ドライビングヘルパー) など、この分野の商品動向と開発事例を紹介する。この分野のキーワードは移乗 (トランスファー) と車椅子 (自動車と車椅子の関わりかた) にあると考えているが、開発のポイントと現状の課題についてもふれたい。これまでの開発の中心は介護支援であつたが、今後は自立支援するほうに移行していくと考えている。またよりユニバーサルデザインの方

- 1 社会的な背景
- 2 福祉車両の市場
- 3 福祉車両の種類と特徴
- 4 開発事例

- ・スライド式リアリフト (車椅子仕様車)
- ・サイドリフトアップシート
- ・助手席回転シートと後席回転シート
- ・車椅子固定装置と車椅子格納装置
- ・移乗サポート機器
- ・ワイヤー式運転補助装置
- ・障害者専用運転席シート

- 5 開発のポイント
- 6 課題と将来にむけて